仕事が進む手応えを、本人とつくる。

クライアントと研究センターの共働開発から、報酬の広がりを仕事で使います。

2021年7月2日、クライアントとABAオペレーションズ研究センターの共働開発を通じた「報酬の開発®『報酬マップ®』」を発表しました。

任せる側の成功体験

仕事を任されたことが、
自分にとって、うれしかった。

本人がいま求めていること

できることを増やしたい。
無理のない進め方も大切にしたい。

この違いを実践の中で捉え、仕事で得られる報酬を整理しました。

当時の発表は、役割分担された組織の担当者の思考・行動の習慣を、
研究センターの実験結果として公開しています。

どんなときに、仕事の手応えを感じるか。

原図にある場面を、本人の仕事で話すために並べ替えています。

自分の仕事が進む

やることが、分かった。

やってみて、できた。

やり方を、自分で決めた。

相手との関わりが進む

具体的に、ほめられた。

相手の期待に応え、喜ばれた。

共に進めて、できた・分かった。

当時の掲載図の後続版（2022年2月28日表示）の19項目から、
6つの場面を取り上げています。

同じ仕事でも、受け止めていることが違う。

月次集計を任せる場面の例。人物とやり取りは、使い方を伝える説明図です。



上司の期待

月次集計を一任し、
成長の機会に。

本人の気がかり

確認作業が、締切までに
終わるか見えない。

いまやり遂げられる範囲と、相談の時点を一緒に選びます。

小さな達成から、取り組む期間を広げる。

原資料の「達成感と、やり遂げる期間」を、月次集計の例へ具体化します。

最初にそろえたこと

対象：一部門の集計

確認先：他部門の担当者

相談：途中で一緒に見る日

試した後、分けて見たこと

できたこと

一部門の数字を、集計できた。

まだ終わっていないこと

他部門の回答を待っている。

回答待ちだったことは、次の相談へ。
できた工夫を聞き、次に取り組む範囲・期間を一緒に選びます。

働きかけの種類と、本人の経験を見る。

Deci（1971）：大学生のパズル課題の実験と、大学新聞の実地実験。

金銭で働きかけた条件

その後の自発的な活動は、
低下する傾向。

肯定的な言葉で働きかけた条件

その後の自発的な活動は、
高まる傾向。

本人が何を手応えと受け止めたかを、仕事の経験からたどる。

課題や期間、関わり方の違いを踏まえ、働きかけの名前だけでなく、
本人の受け止めと次の取り組みを見る参考にします。当社のマップは、
クライアントとの仕事で得た実践知を体系化したものです。

一次研究：Deci（1971）Effects of Externally Mediated Rewards on Intrinsic Motivation

「丁寧だったね」の先で、役立った点を知る。

顧客訪問後の引継ぎメモを使った、現在のガイドの例です。



メモに残したこと：納期は未確認・次の確認先

01 本人が選べる部分

確認の順番や、メモの構成。

02 前よりできたこと

前のメモと、書けた違い。

03 受け手の反応

次の担当者が、何を進めたか。

具体例と図解を読む →

最近の「できた」一件を、次の仕事へ。

本人が手応えを感じた経験から、次に任せる一部分を選びます。

本人に聞く一つ

最近の仕事で、
「できた」「役に立てた」と感じた一件はありますか？

本人と選ぶこと

次の仕事で試したい一部分。

上司が用意すること

情報・相談の時間・使える見本。

[任せ方に合う資料を、仕事の場面から選ぶ →]